

【研究ノート】

北海道士別市で発見されたチョウセンカマキリの収集記録

本部 哲矢（士別市立博物館学芸員）

2020年10月下旬、北海道士別市内の住宅街において、住宅建設に伴う庭木の移し替え工事中に、建設会社の社員によってチョウセンカマキリが発見された（北海道新聞、2020a）。その際採集された個体について、その後発見者より提供いただくことができたため、収集の記録として、ここに報告する。

カマキリはカマキリ目に分類される中～大型の昆虫で、幼虫期から肉食で、前肢に鎌のような捕獲器を持ち、スポンジ状の卵嚢（卵鞘）を産む。中峰（2016）によると、日本には2科13種が生息し、分布に北海道の記載があるのはオオカマキリとウスバカマキリのみとなっている。このことから、北海道においては、カマキリは馴染みの薄い昆虫だと言えるだろう。しかし、近年北海道内でも、オオカマキリ（前田、2000、坂田、2013、大井、2017）、コカマキリ（小川、2013、井村、2018）、ハラビロカマキリ（柏崎、1999）の観察が報告されており、道央・道南を中心に、生息地域の拡大が予想される。

今回発見されたカマキリは2個体で、2020年10月22日に緑型、28日に褐色型が発見者によって採集された。その後飼育されていたが長く生きられず、死後の個体を当館へ提供いただけることとなった。11月上旬に到着し、それら個体は当館で標本として収蔵することとした。種の判別については中峰（2016）を参考とし、胸部にオレンジ色の模様があることから、チョウセンカマキリと判別した。また、岡田（2008）を参考に、発見個体は翅をもっていないことから幼虫と判別した。

山本（2008）によると、チョウセンカマキリは、「寒さに弱く暖地にすむ昆虫で、岩手県辺りが北限」という記載があるように、道北での目撃は珍しく、今回の観察記録は北限の記録である可能性がある。また、発見された状況から、士別で自生しているというよりは、建築資材等に卵鞘が付着していたか、あるいは飼育個体が逃げ出したものだと推測される。最近では、北海道の利尻島では外来のカマキリ類の記録（佐藤、2021）があり、外から持ち込まれた個体が目撃される例もある。カマキリを含めて様々な生物種において、気候の変化や物流、人流等の影響によって、生息分布は変化しうるため、今後も注視していきたい。

北海道新聞（2020b）では、カマキリ発見の続報として、発見個体の標本化、収集活動について紹介された。当館では、地域の生物相の記録のために、標本の作成、収集に取り組んでいるが、その充実のためには、地域住民からの情報提供が大きな役割を果たしている。今回の収集にあたって、個体を提供いただいた発見者の方や発見情報

を寄せていただいた北海道新聞社の記者の方に感謝申し上げるとともに、今後も引き続き、広く情報提供を呼び掛けていきたい。

【参考文献】

- ・井村洋介, 2018. 札幌市でコカマキリを採集. *jzoensis*, 44, 31.
- ・大井伸一, 2017. 伊達市上長和でオオカマキリを採集. *jzoensis*, 43, 119.
- ・岡田正哉, 2008. フィールド版 昆虫ハンター カマキリのすべて, トンボ出版
- ・小川浩太, 2013. コカマキリの札幌市初採集記録. *jzoensis*, 39, 26.
- ・柏崎昭, 1999. 札幌市中央区におけるハラビロカマキリの記録. *jzoensis*, 26, 181.
- ・坂田潤一, 2013. せたな町北檜山区兜野でオオカマキリの観察. *jzoensis*, 39, 108.
- ・佐藤雅彦, 2021. 利尻島西部の倉庫にて発見された外来カマキリ, *利尻研究*, 41, 27-29.
- ・中峰空, 2016. カマキリ目. 日本産直翅類標準図鑑, 198-205, 学研プラス
- ・北海道新聞, 2020a. 岩手北限のカマキリ 士別に. 2020-11-04 付, 夕刊.
- ・北海道新聞, 2020b. 市立博物館が標本化 展示へ. 2020-11-17 付, 朝刊.
- ・前田俊信, 2000. 乙部町でのオオカマキリの記録. *jezoensis*, 27, 61.
- ・山本亜生, 2008. どこから来たのか? カマキリの世界 市博物館ミニ企画展. 小樽ジャーナル. <https://www.otaru-journal.com/2008/10/1027-4> (参照 2022-03-01)



図. 発見されたカマキリ (左: 緑型、右: 褐色型)

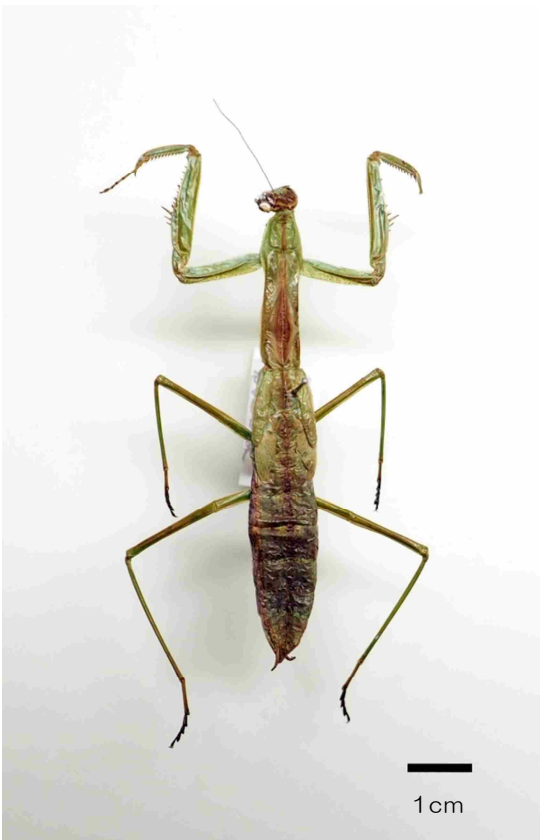


図. 標本写真 (左: 緑型、右: 褐色型)